

人生の試験

2023. 6. 22

中学生や高校生の頃、国語の試験で、次のような問題が出されたことを覚えている。「この文章によって、著者は、読者に何を伝えようとしているのか。」文章を読み、著者の意図を推し量る。そして、正しい答えを見出す。ただし、大抵の場合、選択肢があり、4択か5択である。それも「次の中から最も適当なものを選びなさい。」という形式である。だから、正解することができる。

一人の大人として、自分の道を歩み始め、歳を重ねるにしたがって、時折、人生において、試験問題が出されているように感じることもある。それは、人生の中で直面する、様々な問題である。仕事における失敗や敗北、生活における苦労や困難、人生における挫折や喪失である。

ふと、心に試験の問題が浮かぶ。「この出来事によって、人生は、自分に何を教えようとしているのか。」我々は、心の成長とともに、その答えにたどり着く。この失敗は、自分の、この未熟さを教えてくれている。この苦労は、自分の心の、この弱さを教えてくれている。この挫折は、自分の生き方の、この過ちを教えてくれている。

我々が、このことに気がつき、深い反省のときを経て、心を新たに歩み出すとき、気がつくことがある。人生における、一つの試験の合格証書を手にしてしていることに。人生において、自分の未熟さゆえに、様々な逆境に直面したとき、ふと、心の奥底から聞こえてくる言葉がある。「卒業しない試験は、追いかけてくる」

今までは、目の前の試験問題を試験とは思わずにきてしまった感がある。道理で、いつまでも試験が追いかけてくるわけである。試験だとしても、正解していなかった。深い反省というものがなかった。どうも歳を重ねないと、わからないことが多い。だが、若い頃から、試験をクリアしていく人もいる。そういった人は、人格者と呼ばれているのかもしれない。

試験は嫌いだったが、国語の試験はそうではなかった。文章を読むのがおもしろかった。試験に出される文章は、選りすぐりのものである。読むだけで勉強になる。ところが、人生の試験問題は、読むだけではだめである。じっくりと考えなければいけない。出題の意図をくみ取らなければならない。

ここ数年だろうか。人生の試験というものに気がついたのは。次から次へと、問題が出される。その度に答えを出す。すると、ある傾向が見えてくる。傾向がわかると、対策ができる。傾向と対策である。それでも、相変わらず試験は追いかけてくる。当分の間、卒業できそうもない。これからも、受験生のようなものである。